

学校長様
児童支援専任・生徒指導専任様
特別支援教育コーディネーター様
養護教諭様

令和4年9月12日 第2号
横浜市立浦舟特別支援学校

連携支援だより



暑い夏が終わります。感染症や熱中症に気をつけながらも行動制限のない夏休みで、子どもたちが久しぶりに夏らしい思い出を作って学校に戻ってきたのではないのでしょうか。

7月27日、浦舟特別支援学校でも2年ぶりに対面での研修会をもつことができました。多くの先生方にご参加いただきました。研修の内容をご紹介します。



第1回 「学校と医療の連携」

～子どもの攻撃的な関わり背景にあるもの～

社会福祉法人青い鳥 横浜市東部地域療育センター
所長 高橋 雄一氏



横浜市地域療育センター・児童精神科医療機関の紹介

- ・横浜市のアンケートで、自分の学校に精神科受診が必要と思われる児童生徒がいると答えた児童支援専任・生徒指導専任は80%にのぼる。
- ・療育センター利用者の7割は発達障害である。

攻撃性と衝動性

- ・攻撃性は原始的・本能的な脊椎動物に共通の行動様式のこと。衝動性は、刺激に対してかっとなり、考えなしに行動すること。
- ・攻撃性には「他者」に向けられるものと「自分自身」に向けられるものがある。

子どもの症状の意味・・・Kanner（自閉症研究で知られるアメリカの精神科医）

- ・入場券として
- ・危険信号として
- ・安全弁として
- ・問題解決手段として
- ・厄介ごととして

キレル子どもに対する心構え・・・『「キレル」はこころのSOS』（原田謙 星和書店2019）より

- ・“問題行動”は子どもからのSOSと考える
- ・「自分は大切にされている」と感じてもらう

- ・依存欲求を満たすことを目指さない
- ・一人で抱えようとしない
- ・“性格”でなく“発達特性”とみなす
- ・「どんなことがあってもあなたを見捨てない」という覚悟を決める
- ・支援する大人も自分をほめる

支援

- ・ADHD 特有の症状、二次的な精神症状などに対して薬物を用いることもあるが、薬物療法は基本的には対症療法であり、環境調整の補助である。周りの人々が関わって対応することが大切である。

限られた短い時間の中でしたので、高橋先生からは、さらに詳しく知りたい方への書籍の紹介もありました。参加者からは「読んでみます」の声や「今関わっている子どもの顔を思い浮かべて聞きました」「キレる背景に目を向ける大切さがわかりました」という感想が寄せられました。暑い中、感染症対策にご協力いただきながらのご参加、ありがとうございました。



第2回研修会のお知らせ

特別支援教育総合センターとの共催で行っている病弱部門研修です。

第2回「学校と医療の連携」

～ゲーム依存から見える子どもの問題～

日時：令和4年10月20日（木）15:30～16:45

方法：オンライン開催

講師：神奈川県立精神医療センター コ・メディカル部長 青山 久美氏
 （元横浜市立大学附属市民総合医療センター 児童精神科医師）



*研修管理システム Leaf からお申し込みください。研修コード 22 + k 22



教育相談について

病気が理由で、市内の病院に入院しているお子さん、登校ができていても病気に対する配慮が必要なお子さんについて、教育相談を受け付けています。

学校だけでなく、保護者からの相談も受け付けておりますので、ぜひご紹介ください。

担当：浦舟特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 鈴木 TEL 243-2624

***お手数ですが、貴校全職員への回覧をお願いいたします。**